

Desert Wind

◆◆ 実のならないいちじくの木 ◆◆

LVJCC 牧師: 鶴田健次

この度の東北関東大震災は、東北地方を中心に大変な被害をもたらしました。さらに福島第一原発の事故が日本中を震撼させています。神は、このような大惨事を通して、人間の無力さを人々に知らせ、キリストによる救いの大切さを世界中の人々に知らせようとしておられるのでしよう。

また、これは私たちクリスチャンに対する警告かも知れません。このような患難時代の先駆けのような大惨事を通して、神は私たちクリスチャンに霊的な覚醒を与え、このような時代に生きる者としての自覚を与えようとしておられるのだと思います。

さて今回は、ルカの福音書 13 章 1-9 節にある、実のならないいちじくのとえ話について考えてみたいと思います。

① 犠牲を通して実現する神の御心

総督ピラトは、ガリラヤ人たちを処刑し、ユダヤ人への見せしめとして、処刑した者たちの血を、ユダヤ人が神聖なものとしていた神殿の祭壇に注ぎかけました。さらに、この忌まわしい出来事と平行して、シロアムの塔が倒れて労働者たち 18 人が死ぬという事故がありました。いったい、神様がいらっしゃるならばどうしてこんな事が起こるのか。人々は、このような人生の不条理に対する訴えをイエス様に対して投げかけたのです。

そこでイエス様は、「災難にあった人々が、あなた達より罪深く、災難に遭う当然の理由があったのだと思っはいけない」と言われました。悪いことが起きるのは悪いことをしたからだという考えを因果応報と言いますが、イエス様は苦難というもの、そのように単純に考えてはいけなと教えられたのです。

イエス様の受難がまさにそうです。イエス様は悪いことをして苦しまれたわけではありません。人々の罪と病の身代わりとなっ

て苦しまれたのです。苦しみには、このような聖なる苦しみがあります。そして、そのような苦しみや犠牲を通して、神様の目的が成就されていくのです。

② 警告を読みとる

しかしイエス様は、「あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます」と二度も繰り返して仰いました。イエス様は、ユダヤ民族の悔い改めを求められたのです。悔い改めとは方向転換をすることですが、イエス様は、ユダヤ民族に方向転換を求められました。それは、武装蜂起をして独立を勝ち取り、ダビデ王国のような地上の王国を築くことではなく、義と愛と平和の神の国を築くことでした。

そうでなければ、あなたがたは国を滅ぼすであろう。今回の事件はそのような警告なのだといイエス様は言われたのです。これはまた、私たちクリスチャンがこの世においてどのように生きるべきかという教訓でもあります。

③ 実のならないいちじく

さて、イエス様はこれらの話の後で、実のならないいちじくの譬え話をされました。ある主人が、ぶどう園にいちじくの木を植えました。しかし、いちじくの木が実をつけないことに苛立って、主人は、「これを切り倒してしまえ」とぶどう園の番人に命じます。すると、番人は主人をなだめて、「もう一年待ってください。私が一生懸命に育ててみますから」と頼むのです。

実のならないいちじくの木、それは神様の期待を裏切り続けている私たちのことです。しかし、このような私たちのために、「まだ切り倒さないで下さい。私がおも愛し、手をかけて育てますから」と言って下さる方がいらっしゃる。それがイエス様なのです。これは、もう一度チャンスが与えられるという福音のメッセージです。私たちの過去が、たとえどんなに失敗に満ちたものであっても、私たちはイエス様と共にもう一度人生をやり直すことができるのです。

DREAMS COME TRUE

- ✦ 教会堂の建設
- ✦ 敬老ホームの設立
- ✦ 幼稚園の設立

お祈りのリクエスト

- 日本の家族の救いのために
- 各スモールグループのオイコス伝道のために
- 入門者クラスのために (ミミ姉、和江姉、山口兄、恵美姉)
- 英語部の働きのために
- ユースミニストリー、サンデースクールのために
- 癒しの祈り: 恵理奈ちゃん、倉田一徳さんの脳腫瘍、シメオン兄、小林豊兄、神崎先生の目、植木ケン兄、新井雅之兄の癌、中村裕二先生の直腸癌、藤永君江姉の癌、Simeon 兄の癌、山口スカイ君の心臓

Desert Wind では、ご意見・質問等何でも受け付けております。
lvjccdw@hotmail.co.jp
発行人: 鶴田健次
編集人: 松岡みどり

私の半生

証し / Kay Burtrum

神様の恵みにより、証しの機会を与えていただきましたことを感謝します。

1962年、私と主人と1歳の息子ルイスは日本からカリフォルニアへ引っ越して来ました。その時はうれしさに溢れて、私は世界一の幸せ者だと思いました。主人の両親もとても親切にしてくれ、私達は主人の母親が経営しているアパートに管理人として住み込みました。ルイスが小学校に行く頃に、私達は自分たちの家を購入しました。ルイスは野球が大好きでリトルリーグに入り主人はチームマネージャーとして親子で楽しんでいました。でもこの幸せは長く続きませんでした。

結婚十三年目に、主人に女友達が出来て私達は離婚することになりましたが、ルイスはとても傷つき、彼に悲しい思いをさせてしまいました。私は主人を引き止めることができなかったのです。

家庭の主婦だった私は友達の働いているレストランで朝6時から夜の12時までウエイトレスをして働きました。ルイスは淋しくて、私が帰ってくるまで寝ないで待っていました。三年後、友達の勤めている会社に就職が決まった時にはやっと安心することができました。保険もあり勤務時間も朝7時から4時半です。ルイスはとてもよろこんでくれました。この会社に18年勤めましたが、会社がテキサスに移転するというので辞めざるを得なくなりました。

この頃、私は一人の男性と知り合いました。ルイスは一人でアパートを借りて住んでおり、ある日ルイスが「今交際している女性がいるのだけれど、彼女と結婚したい」と言いました。そこで女性のご家族に会いに行きましたところ、ご両親は、娘には結婚はまだ早すぎる、と反対されました。ルイスはこのこと以来仕事も辞めて家に引きこもり、うつ病のようになってしまいました。ひと月後一緒に住むようにしました。そして私は一人で前の主人に相談に行きましたが、「自分には息子はもういない」という返事が返ってきました。私は、自分で息子を守る決心をしました。前の主人の母親から電話がありました。「ルイスが可哀想だから一軒家を買ってあげる」と言うのです。ルイスは自分の家を持つということで気持ちが変わっていったのでしよう、だんだん元気になって仕事も探し始めました。

私はボーイフレンドから結婚の申し込みを受け、ルイスに相

談しました。「お母さんも幸せになってほしい」という返事もらい、私達は結婚しました。しばらくして彼の仕事がラスベガスに転勤になったので2人でラスベガスへ引っ越しました。ルイスはCA からよく私を訪ねて来てくれて、結局ラスベガスが気に入って CA の家を人に貸して引っ越してきました。ルイスはラスベガスに家を買って、仕事はトレジャーアイランドに決まり、とても喜んで一人でがんばっていました。

15年目に主人から離婚の話があり、私も同意し別れました。私はルイスの家に一緒に住むことになりました。しかしトレジャーアイランド12年目、ルイスはレイオフになってしまったのです。CA の家を持ってまとまったお金が入ると、仕事も探さずずっと家にいるようになりました。私はその当時ガイドの仕事をしていたのですが、毎日家にいる自堕落な息子を見てると平静な気持ちも失い、つい文句が出てしまうのです。家に帰るのも嫌でカジノに行きギャンブルで気を紛らわしているというような毎日でした。私は仕事とそんなルイスとで疲れきっていました。

ある日、ルイスと2人でカリフォルニアへ行くことにしました。それはルイスのお父さんに会って相談したかったからです。私には他に相談する人がいませんでした。前の主人は「自分には息子はいない」と、以前言ったことを今度は私と息子の前で言い、私達を追い払いました。それを聞いた息子はひどいショックを受けました。私は心から申し訳ないことをしたと謝りましたが、彼は一生忘れないでしょう。私達親子は打ちのめされ、生きている意味もなく、生きる気力も失せていました。

ラスベガスに戻る途中、突然、昔の友達・クリスチャンの小林夫妻のことを思い出して電話をしてみました。快く家に招いていただき、鶴田先生のことをお聞きしました。その電話番号がただ一つの心の光でした。ラスベガスに戻って鶴田先生にお電話し、お会いする約束もしました。実はその夜泊まる場所もない私達でしたが、先生と松岡兄弟が、ちゃんと泊まる場所をみつ付けてくださり、2日後にはアパートに住めるようにもしてくださりました。まるで奇跡のようでした。私は神様を信じていませんでしたが、今起こっていることは、神の力だと思ったのです。

私はこれまで人を信じられませんでした。愛することが何かも本当のところ知りませんでした。だから、愛せないし愛してもらえませんでした。しかし、人のために命を捨てたイエス・キリストを知ってからは、本当の神様はここにいらっしゃる、私を愛し、私の人生を救いに導くようご計画してくださったことが分りました。今後は神様に恩返しする人生を送りたいと思っています。



編集室 便り

今回の地震は世界の大地震トップ 5 に入る程の巨大な地震だった。地震波は地球を5周し、イタリアの地球物理学・火山国立研究所は、地球の地軸が約10センチずれたと報告している。米地質調査所の観測では、海岸線が太平洋側に2.4メートル移動したことが明らかになったと伝えている。想定外の規模による地震と津波の大きさを、福島第一原発の事故が起き、放射能の恐怖が人々を脅かしている。まるで悪夢のような現実。これを神様の視点で見るとどう見えるのだろう。それを知るすべはないが、人の目には不条理に見えることでも神様にはそうではないのだろう。エシヤ29:11で「それは災ではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」とある。神様は常に永遠からの視点で見られて、完璧な将来のご計画があると信じる。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。